

貝類資源調査結果

貝類資源の変化を把握するために 1986 年（昭和 61 年）から漁場内の定点において貝類の分布密度調査を偶数月に実施しています。

アサリ分布密度は、令和 4 年は 12～110 個の低密度で推移しましたが、令和 5 年 2～4 月には平年値（過去 10 年平均）以上の 153～182 個/㎡へ回復しました。しかし、6 月以降は低密度が続き、年平均分布密度は 85 個/㎡で、昨年の値（66 個/㎡）はやや上回りましたが平年値（117 個/㎡）を下回りました。特に成貝が顕著に減少しています（図 1）。

ホンビノスガイも同様に成貝の資源量が減少していますが、8 月以降は稚貝の分布密度がやや増加しました。年平均分布密度は 12 個/㎡で昨年の値（5 個/㎡）はやや上回りましたが、平年値（24 個/㎡）を下回りました（図 2）。

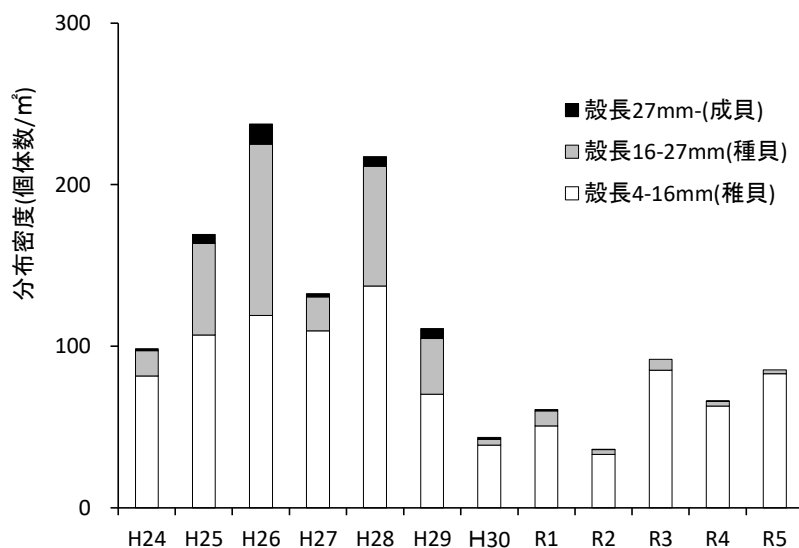


図 1 年別殻長別アサリ分布密度の推移

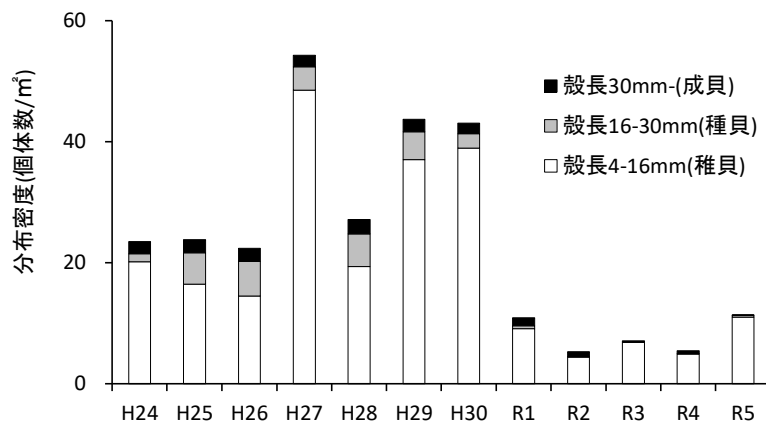


図 2 年別殻長別ホンビノスガイ分布密度の推移